

# 平成 27 年度 ふくしまから はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の推進地区の取組

拠点校名	桑折町立醸芳中学校
推進協力校名	桑折町立醸芳小学校 桑折町立睦合小学校 桑折町立半田醸芳小学校 桑折町立伊達崎小学校

## 町ぐるみで「確かな学力の向上」をめざして！ 二 年 次

### 取組の内容

#### 1 課題の明確化と共有化

- (1) 右図の「家庭生活習慣のポイント」を中心に、各園・各学校で学習習慣・生活習慣実態調査を実施するとともに、全国学力・学習状況調査や県学力調査、定着確認シートの各結果を活用して、児童生徒の実態や現状の把握に努め、課題を明確にして諸取組の方向性を決めた。
- (2) 小中接続を基本として、幼小連携・小小連携の一層の強化を図るとともに、各PTAや地域との連携の上で「桑折町の15歳のめざす姿」特に、学力向上の実現をめざして取り組んだ。

	幼稚園	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
生活リズム	早起、早起、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起、早起、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起、早起、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起、早起、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起、早起、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する
睡眠時間	10時間程度	9時間半程度	9時間程度	8時間程度	7時間半程度
食事	ほしを正しく持つ食べる	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。
あいさつ	相手をを見て元気なあいさつをする	相手をを見て元気なあいさつをする	相手をを見て自分からあいさつをする	相手をを見て自分からあいさつをする	あいさつを含めた時と場に応じた礼儀を身に付ける
手伝い	出来ることを行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う。地域の活動に参加する
読書、新聞	読み聞かせする	自分で音読する	読書をする。図書館を活用する	読書をする。図書館を活用する	本や新聞を読む。図書館を活用する
テレビゲーム	ゲームを持たせない。持たせる時は時間を決める。テレビも時間を決める	ゲームを持たせない。持たせる時は時間を決める。テレビも時間を決める	テレビやゲームの時間を決める。子どもの部屋にテレビやコンピュータを置かない	テレビやゲームの時間を決める。子どもの部屋にテレビやコンピュータを置かない	テレビやゲームの時間を決める。子どもの部屋にテレビやコンピュータを置かない
きまり	誰の人や先生との約束を守る	家、学校、社会のルールを守る	家、学校、社会のルールを守る	家、学校、社会のルールを守る	家、学校、社会のルールを守る
携帯電話	持たせない	持たせない。どうしても必要なときはルールを決める	持たせない。どうしても必要なときはルールを決める	持たせない。どうしても必要なときはルールを決める	持たせない。どうしても必要なときはルールを決める
学習	家でできることを話す	宿題 学年×10分+α	宿題+自主学習 学年×10分+α	宿題+自主学習 学習・授業・復習のサイクル化 学年×10分+α	宿題+自主学習 学習・授業・復習のサイクル化 学年×10分+α

#### 2 学校ネットワーク作り

- (1) 各校で校内授業研究を行う際に、町内の幼・小・中に案内するとともに、右図の「授業における共通の視点」をもとに焦点を絞って事後研究会で協議した。
- (2) 拠点校(中学校)での授業公開時に、テレビ会議システムを活用した事前の指導案検討会や事後研究会を行った。
- (3) 地域連携推進委員会の事務局会(各校の教頭と研究主任)を核として、幼稚園を含めて推進校どうしの連携を図った。

桑折町学力向上推進計画「共通して取り組みたい実践」	授業における共通の視点	備 考
<p>1 確かな学力を育てる授業づくり</p> <p>① 実態を踏まえ、ねらいとまどめを明確にした授業設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導内容の精選と重点化(単元、本時)</li> </ul> <p>② 幼・小・中合同での教材研究や授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つなぐ」内容等の共通理解と実践(好奇心、意欲、学び方、教材の系統等)</li> <li>・ 評価を生かした学習指導の工夫</li> <li>・ 形成的評価、総合的評価と補充学習、発達学習等</li> </ul> <p>③ 学力調査(全国・県)、学力検査の結果分析、課題と対策</p> <p>2 学力向上を支える基盤づくり</p> <p>① 互いに認め合う、思いやりのある学級集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (安心感・存在感・向上心)</li> <li>・ 「学び力」「学習規律」「学習習慣」の確立</li> <li>・ 「授業の約束(学習の手引き)」の徹底しと確実な指導</li> <li>・ 家庭学習・生活習慣の確立</li> <li>・ 「家庭生活習慣確立のポイント」の作成と発信活動の推進</li> <li>・ 家庭学習時間           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 求道 学年×10分+α</li> <li>○ 中: 学年×1時間+α</li> <li>○ 保護者との連携・協力による「うちごと」の推進</li> </ul> </li> </ul> <p>3 教師の力量を高める校内体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの姿の姿容を基盤に研修意欲を高める校内研修の活性化</li> <li>○ 学力向上のマネジメント</li> <li>○ 幼・小・中連携に基づく「学び」「育ち」の効果的支援</li> <li>○ 発達段階に応じた指導内容、教材等と学習</li> <li>○ 校外の各種研修等の研修成果の共通理解と実践</li> <li>○ 学習指導要領で求められている学力についての共通理解</li> <li>○ 教材の本質にせまる研修</li> <li>○ 思考力を育てる教材の活用と指導の工夫</li> </ul> <p>4 各校の実践の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼・小・中の研修交流</li> <li>○ ICT(電子黒板等)研修会の企画</li> <li>○ 言語活動の取り組み</li> <li>○ 体験から感じ取ったことを表現する</li> <li>・ 事実を正確に理解し、伝達する。</li> <li>・ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。</li> <li>・ 情報を分析・評価し、論述する。</li> <li>・ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。</li> <li>・ お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。</li> </ul>	<p>児童生徒の実態を踏まえ、ねらいとまどめを明確にした授業であるか。</p> <p>ねらいとまどめの整合性</p> <p>幼・小・中それぞれの指導内容や実態等を理解し、「つなぐ」(学び方や教材の系統等)を配慮した授業であるか。</p> <p>事前研究会(小中)の充実</p> <p>既習の内容を活用して新たな課題を解決しようとする態度を養うように、指導を工夫しているか。</p> <p>指導と評価の一体化</p> <p>児童生徒がお互いの考えのよさを認め合い、学び合う活動を通して、授業のめあてを達成しようとしているか。</p> <p>学び合う学習集団の形成</p> <p>「授業の約束(学習の手引き)」に沿って、確実な指導が行われているか。また、児童生徒の身についているか。</p> <p>学習規律の徹底</p> <p>授業のめあての達成のために、ICT(電子黒板等)が有効活用されているか。</p> <p>ICTの活用などの授業の視覚化</p> <p>各教科等の目標と指導事項との関連及び児童生徒の発達段階や言語能力を踏まえて言語活動を計画的に位置付け、授業の構成や指導方法を工夫しているか。</p> <p>授業の質的改善</p> <p>「わかる・できる授業」</p> <p>「学ぶ楽しさが実感できる授業」</p> <p>「アクティブ・ラーニング」</p> <p>課題の発見・解決に向け主体的・協働的で、能動的に学ぶ学習(文科学習/原級学習より)</p>	<p>&lt;各校の研究テーマ・研究仮説&gt;</p> <p>○ 醸芳小学校 研究主題…「確かな学力を身につけるための授業改善」 研究仮説…「言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育てる」 「日常的な教育活動により習得した知識・技能の活用」の在り方について、明確な見直しを持って言語活動を位置づける。言語活動の質的改善を図って、思考力・判断力・表現力を育成することができよう。</p> <p>○ 睦合小学校 研究主題…「学ぶ意欲を持ち、自分の思いを表現できる児童の育成」 「自ら学び合う学習活動を」 「通して(3年次)」 研究仮説…「学習過程の中に、ともに学び合う活動を位置づけ、次のような手立てを工夫すれば、意欲的に学び自分の思いを表現できる児童を育てることができよう」 ① 児童にはっきりとした考えをもたせるための手立て ② 自分の考えを自分の言葉で表現させるための手立て ③ 相手の考えを聞き、見方・考え方を広げるための手立て</p> <p>○ 半田醸芳小学校 研究主題…「自ら学び、自ら考える児童の育成」 「言語活動を通して学び合いによる授業の実践」 研究仮説…「子どもが自分の考えを述べ、聞かせる。聞くときよりかわり合いながら考えを深めたり整理したりしていくことで、学習のねらいが達成でき、基礎的・基本的な知識及び技能を習得したり活用したりすることができるようになるであろう」</p> <p>○ 伊達崎小学校 研究主題…「自ら考え、主体的に学ぶことができる児童の育成」 「思考力の育成を目指して」 研究仮説…「単元構想や単元時間において、児童が自ら考え主体的に取り組むことができるような学習展開の工夫をすれば、児童の思考力が高まるであろう」</p> <p>○ 醸芳中学校 研究主題…「自律的に学習する生徒を育てる指導の工夫」 「学んだことを活用する力を高める指導において」 研究仮説…「単元構成を工夫し、授業の「応用」や「発展」の学習場面で、解決策や方向性を、教師から一方的に与えるのではなく、子どもたち自ら見いだせるような学習活動を図っていくことにより、生徒の活用する力が高まり、自律的に学ぶ生徒が育成されるであろう」</p>

#### 3 授業研究や交流授業による連携強化並びに教員の指導力の向上

↑「授業における共通の視点」

- (1) 各校で、県発行の「算数・数学科指導事例集」を活用した授業を行った。また、「コアティーチャー」の授業研究会に参加し、算数・数学の指導法の改善に役立てた。
- (2) 一人一研究授業のもとに校内授業研究会を、多くの授業で外部講師を招聘し、授業の質的改善を図った。特に、下にある1校1授業研究会公開では、事前研究会から各校に案内をだし、小中連携のもとに指導案を検討した。

6月 半田醸芳小学校の外国語活動(小5年) 7月 醸芳小学校の算数(小6)

9月 伊達崎小学校の算数(小2)

10月 睦合小学校の社会(小4)

11月 醸芳中学校の国語と技術(中2)

この中で、11月の中学校の公開には、町内の全幼稚園・小学校教員が参加して、その後講演会を開催した。また、事後研究会においては、小グループに分けてKJ法で検討するなどして、事後研究会の質の向上を図った。

#### 4 「わが町プラン」などの作成と教員・保護者・地域への配付と活用

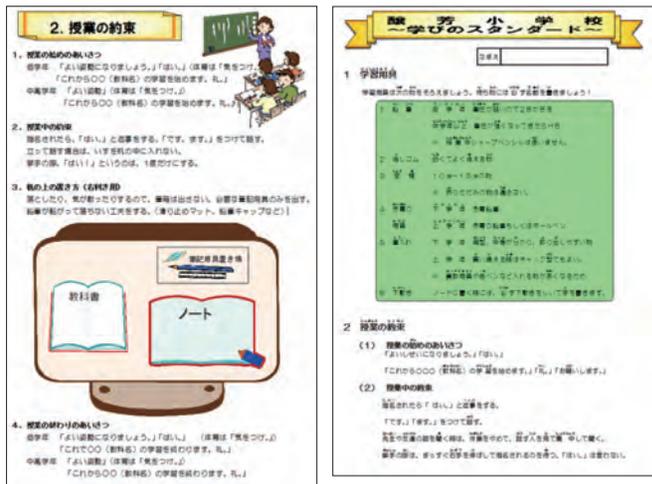
「15歳のめざす姿」の段階的スタンダード「学校・保護者用」の作成と配付【新規】

保護者から「15歳の姿」は分かったが、それまでに各年代で何をめざしていけばよいか分からないという声をいただき、幼稚園～中学3年までを4期(幼児期・小1～小4・小5～中1・中2～中3)に分けて、段階的な成長の姿をPTA連絡会議において協議し検討して、その一例を示した。



#### 5 「学びの手引き」の作成と児童生徒への配付と活用

昨年度、小中間の学び方の統一性をめざして拠点校の醸芳中学校の「学習の手引き(約束)」を基に、協力校の各小学校で「学習の手引き(スタンダード)」を見直したが、今年度は、その重点化を図った。



#### 6 保護者との連携

- (1) 町PTA連絡協議会で取組状況の説明と協力の依頼を行った。
- (2) 各校PTAの会議で取組状況の説明と協力の依頼を行った。



町PTA連絡協議会

#### 7 地域連携学習会(小中連携)の開催

- (1) 6年生の中学校訪問(授業体験)
- (2) 旧小学校6年担任による中1授業参観・協議【新規】

2 開催時刻	7月 2日(木) 醸芳小 6校時参観(14:40~15:30)、1学年担当との情報交換(~16:00)	7月 6日(月) 陸合小・伊達崎小 5校時参観(13:40~14:30)、1学年担当との情報交換(~15:00)	7月 7日(火) 半田醸芳小 6校時参観(14:40~15:30)、1学年担当との情報交換(~16:00)
3 出席者	各小学校旧(6年)学級担任 ※各小学校ごとの開催へと変更しましたので、旧6年担任の先生の都合がつかない場合は、期日を変更いたしますので、ご連絡ください。		
4 参観時の時間割	(1) 7月 2日(木) 6校時	(2) 7月 6日(月) 5校時	(3) 7月 7日(火) 6校時
	1年1組 英語	1年1組 保健体育	1年1組 数学
	1年2組 理科	1年2組 保健体育	1年2組 国語
	1年3組 保健体育	1年3組 英語	1年3組 家庭
	1年4組 保健体育	1年4組 理科	1年4組 技術

#### 8 講演会の実施

- (1) キャリア教育の視点から、児童生徒を対象に、地域の有識者による、中1の「職業人に聞く会」、中2の「職場体験」や「立志式」時の講演会を実施した。



中学校1年生の職業人に聞く会

- (2)-1 講演会の実施(その1)

※教員を対象とした授業力向上のための講演会【新規】



秋田大学教育文化学部  
阿部 昇 教授  
平成27年11月16日

- (2)-2 講演会の実施(その2)

※PTA活動計画にある教育講演会



東北大学  
加齢医学研究所長  
川島 隆太 先生  
平成27年11月14日

#### 成果(○)と課題(●)

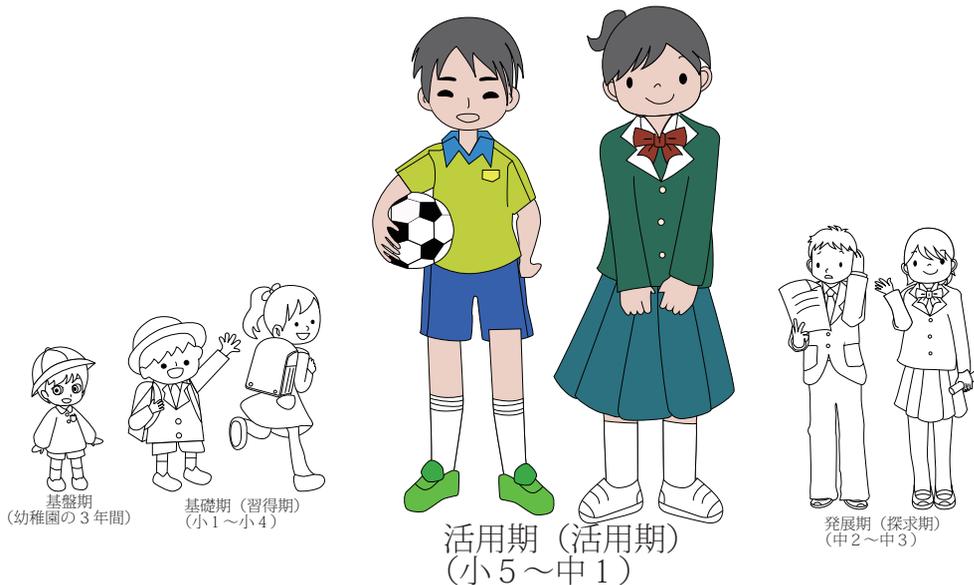
- (1) 学力向上に関するアンケート調査(教職員の自己評価)から
  - コンピテンシーをベースにした授業の創造に努力した。
  - 児童生徒が共同で学び合い、高め合うように努めた。
  - 校内研修の充実により、現職教育がより活性化した。
  - 各校の授業研究会が集中することが多く、参加者の調整に配慮が必要となった。
- (2) 授業研究部の記述調査(教職員の自己評価)から
  - 他校の授業を参観し、自分の授業を見直した。
  - 中学校へのつなぎの面で、小学校時の指導のポイントが分かった。
  - Q-U検査でNRTとクロス集計し、学習集団作りに活用した。
  - 事後研究に参加できないときは、感想を出してほしい。
- (3) 保護者が子どもの様子进行评估したアンケートから
  - 各家庭で「家読」の時間や場所等の設定を行っているが、今後も子ども達が読書をするよう働きかけたい。

家庭生活習慣のポイント 桑折町教育委員会

	幼稚園	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
生活リズム	早寝, 早起き, 朝ご飯, 同じ時刻に就寝・起床する	早寝, 早起き, 朝ご飯, 同じ時刻に就寝・起床する	早寝, 早起き, 朝ご飯, 同じ時刻に就寝・起床する	早寝, 早起き, 朝ご飯, 同じ時刻に就寝・起床する	早寝, 早起き, 朝ご飯, 同じ時刻に就寝・起床する
睡眠時間	10 時間程度	9 時間半程度	9 時間程度	8 時間程度	7 時間半程度
食事	はしを正しく持って食べる	家族で一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる	家族で一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる	家族で一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる	家族で一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる
あいさつ	相手を見て元気なあいさつをする	相手を見て元気なあいさつをする	相手を見て自分からあいさつをする	相手を見て自分からあいさつをする	あいさつを含めた時と場に合った礼儀を身に付ける
手伝い	出来ることを行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行い, 地域の活動に参加する	家庭の仕事や役割を責任を持って行い, 地域の活動に参加する
読書・新聞	読み聞かせする	自分で音読する	読書をする 図書館を活用する	読書をする 図書館を活用する	本や新聞を読む 図書館を活用する
テレビゲーム	ゲームを持たせない 持たせる時は時間を決める テレビも時間を決める	ゲームを持たせない 持たせる時は時間を決める テレビも時間を決める	テレビやゲームの時間を決める 子どもの部屋にテレビやコンピューターを置かない	テレビやゲームの時間を決める 子どもの部屋にテレビやコンピューターを置かない	テレビやゲームの時間を決める 子どもの部屋にテレビやコンピューターを置かない
きまり	家の人や先生との約束を守る	家, 学校, 社会のルールを守る	家, 学校, 社会のルールを守る	家, 学校, 社会のルールを守る	家, 学校, 社会のルールを守る
携帯電話	持たせない	持たせない どうしても必要なときはルールを決める	持たせない どうしても必要なときはルールを決める	持たせない どうしても必要なときはルールを決める	持たせない どうしても必要なときはルールを決める
学習	園のできごとを話す	宿題 学年×10分+ $\alpha$	宿題+自主学習 学年×10分+ $\alpha$	宿題+自主学習 予習・授業・復習のサイクル化 学年×10分+ $\alpha$	宿題+自主学習 予習・授業・復習のサイクル化 学年×1時間+ $\alpha$

桑折町学力向上推進計画「共通して取り組みたい実践」	授業における共通の視点	備 考
<p>1 確かな学力を育てる授業づくり</p> <p>◎ 実態を踏まえ、ねらいとまとめを明確にした授業設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導内容の精選と重点化(単元、本時)</li> </ul> <p>◎ 幼・小・中合同での教材研究や授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つなぎ」の内容等の共通理解と実践(好奇心、意欲、学び方、教材の系統等)</li> </ul> <p>◎ 評価を生かした学習指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 形成的評価、総括的評価と補充学習、発展学習等</li> <li>・ 学力調査(全国・県)、学力検査の結果分析、課題と対策</li> </ul> <p>2 学力向上を支える基盤づくり</p> <p>◎ 互いに認め合う、思いやりのある学級集団づくり</p> <p>(安心感・存在感・向上心)</p> <p>◎ 発達段階に応じた「学び方」「学習規律」「学習習慣」の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「授業の約束(学習の手引き)」の見直しと確実な指導</li> </ul> <p>○ 家庭学習・生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「家庭学習習慣確立のポイント」の作成と啓発活動の推進</li> <li>・ 家庭学習時間</li> </ul> <p>小: 学年×10分+α 中: 学年×1時間+α</p> <p>○ 保護者との連携・協力による「うちどく」の推進</p> <p>3 教師の力量を高める校内体制づくり</p> <p>○ 子どもの姿の変容を基盤に研修意欲を高める校内研修の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上のマネジメント</li> </ul> <p>○ 幼・小・中連携に基づく「学び」「育ち」の効果的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達段階に応じた指導内容、教材等と学習</li> </ul> <p>○ 校内外の各種研修等の研修成果の共通理解と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領で求めている学力についての共通理解</li> <li>・ 教材の本質にせまる研修</li> <li>・ 思考力を育てる教材の活用と指導の工夫</li> </ul> <p>4 各校の実践の情報発信</p> <p>○ 幼・小・中の研修交流</p> <p>◎ ICT(電子黒板等)研修会の企画</p> <p>◎ 言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験から感じ取ったことを表現する。</li> <li>・ 事実を正確に理解し、伝達する。</li> <li>・ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。</li> <li>・ 情報を分析・評価し、論述する。</li> <li>・ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。</li> <li>・ お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。</li> </ul>	<p>□ 児童生徒の実態を踏まえ、ねらいとまとめを明確にした授業であるか。</p> <p>※ ねらいとまとめの整合性</p> <p>□ 幼・小・中それぞれの指導内容や実態等を理解し、「つなぎ」(学び方や教材の系統等)を配慮した授業であるか。</p> <p>※ 事前研究会(小中)の充実</p> <p>□ 既習の内容を活用して新たな課題を解決しようとする態度を養うように、指導を工夫しているか。</p> <p>※ 指導と評価の一体化</p> <p>□ 児童生徒がお互いの考えのよさを認め合い、学び合う活動を通して、授業のめあてを達成しようとしているか。</p> <p>※ 学び合う学習集団の形成</p> <p>□ 「授業の約束(学習の手引き)」に沿って、確実な指導が行われているか。また、児童生徒の身につけているか。</p> <p>※ 学習規律の徹底</p> <p>□ 授業のめあての達成のために、ICT(電子黒板等)が有効に活用されているか。</p> <p>※ ICTの活用などの授業の視覚化</p> <p>□ 各教科等の目標と指導事項との関連及び児童生徒の発達の段階や言語能力を踏まえて言語活動を計画的に位置付け、授業の構成や指導方法を工夫しているか。</p> <p>※ 授業の質的改善</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「わかる・できる授業」</li> <li>・ 「学ぶ楽しさが実感できる授業」</li> <li>・ 「アクティブ・ラーニング」</li> </ul> <p>※ 課題の発見・解決に向け主体的・協働的で、能動的に学ぶ学習(文科省:清原視学官より)</p>	<p>&lt;各校の研究テーマ・研究仮説&gt;</p> <p>◇ 釧路小学校</p> <p>研究主題…「確かな学力を身につけるための授業改善」</p> <p>～言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育てる～</p> <p>研究仮説…日常的な教育活動により習得した知識・技能の活用の在り方について、明確な見通しを持って言語活動を位置づけ、言語活動の質的改善を図っていけば、思考力・判断力・表現力を育成することができるだろう。</p> <p>◇ 睦合小学校</p> <p>研究主題…「学ぶ意欲を持ち、自分の思いを表現できる児童の育成」</p> <p>～ともに学び合う学習活動を通して(3年次)～</p> <p>研究仮説…学習過程の中に、ともに学び合う活動を位置づけ、次のような手立てを工夫すれば、「意欲的に学び自分の思いを表現できる児童」を育てることができるであろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童にはっきりとした考えをもたせるための手立て</li> <li>② 自分の考えを自分の言葉で表現させるための手立て</li> <li>③ 相手の考えを聞き、見方・考え方を広げるための手立て</li> </ol> <p>◇ 半田釧路小学校</p> <p>研究主題…「自ら学び、自ら考える児童の育成」</p> <p>～言語活動を通じた学び合いによる授業の実践～</p> <p>研究仮説…子どもが自分の考えを持ち、聞く・話す、書くなどによりかかわり合いながら考えを深めたり整理したりしていくことで、学習のねらいが達成でき、基礎的・基本的な知識及び技能を習得したり活用したりすることができるようになるであろう。</p> <p>◇ 伊達崎小学校</p> <p>研究主題…「自ら考え、主体的に学ぶことができる児童の育成」</p> <p>～思考力の育成を目指して(算数科)～</p> <p>研究仮説…単元構想や単位時間において、児童が自ら考え主体的に取り組むことができるような学習展開の工夫をすれば、児童の思考力が高まるであろう。</p> <p>◇ 釧路中学校</p> <p>研究主題…「自律的に学習する生徒を育てる指導の工夫」</p> <p>～学んだことを活用する力を高める指導において～</p> <p>研究仮説…単元構成を工夫し、授業の「応用」や「発展」の学習場面で、解決策や方向性を、教師から一方的に与えるのではなく、子どもたち自ら発見できるような学習活動を図っていくことにより、生徒の活用する力が高まり、自律的に学ぶ生徒が育成されるであろう。</p>

## つなぐ教育 日常生活での姿 (中学校1年生時のめざす姿の一例)



### <知 学習 (1) 家庭学習習慣や家庭生活習慣>

- ① 社会の様々な職業のよさを理解し、自分の得意な教科や好きな教科の学習に積極的に取り組んでいる。
- ② 授業中、積極的に発言したり、分からないところを友達や先生に質問したりするとともに、家庭学習 (学年  $\times 10$  分 +  $\alpha$ , 中学1年は、学年  $\times 1$  時間 +  $\alpha$ ) に取り組んでいる。

### <知 学習 (2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得>

- ① 書くための材料を集め整理し、自分の考えが明確な説明の文を書いている。
- ② 風呂に一定の割合で水を入れる際、始めの水位と3分後の水位から満水になるまでの所要時間を計算している。
- ③ ニュースや新聞などに出た国内外の地名や歴史上の人物・文化遺産を、地図帳や資料集などを使い調べている。また、国際理解に興味を持ち、積極的にALTと英語を使って関わろうとしている。
- ④ 植物を育てるためには、光・水・肥料が必要なことを理解している。

### <知 学習 (3) 思考力・判断力・表現力など>

- ① 授業や家庭生活の中で、相手の話を聞き「自分の考えとは～は違う (似ている) けれど、…だから、〇〇と思う。」との話し方をしている。
- ② 地域の学習では、地域を受け継ぐ人たちの思いや工夫・努力、また住んでいる人たちの思いや願いを様々な立場から考えている。

### <徳 生活 (4) 歴史・伝統・郷土など>

- ① 集団宿泊学習において自然を体験するとともに、郷土「桑折」を学ぶ学習を通して郷土に誇りを持つとともに日本の美しさや良さを感じたりしている。
- ② 小学校5・6年生では、月10冊以上、中学生は月7冊以上の本 (何かを調べるために活用した本を含む) を読んでいる。

### <徳 生活 (5) よりよい人間関係づくり>

- ① 父母や祖父母を敬愛するとともに、相手のためになる必要な手助けを進んで行っている。
- ② グループ (班) 活動を行うときに、お互いの得意なことを教え合い、うまく役割分担して協力している。

### <徳 生活 (6) 社会の一員としての自覚など>

- ① 学校生活に適した服装や持ち物などのきまりを守るとともに、自分に任された係の仕事や家庭での役割などに意欲的に取り組んでいる。
- ② あいさつと会釈を使い分けるとともに、年上の人や大勢の人に話すときには敬語を使っている。

### <体 健康体力 (7) 健康・安全>

- ① 暗い道や人通りの少ない道は、できるだけ一人で通らないなど、自ら危険を回避して生活している。
- ② 自らを守るため、自転車乗車時はヘルメットを着用し、安全に自転車に乗っている。

### <体 健康体力 (8) 生活習慣>

- ① 清潔な服装や貴校に配慮した服装を心がけるなど、健康に気を配っている。
- ② 毎日規則正しく、食品をバランスよく組み合わせた食事を摂っている。

### <体 健康体力 (9) 心の健康保持や体力>

- ① 自己の目標を設定し、その達成に向けて仲間と協力したり、練習を工夫して取り組んでいる。
- ② 放課後や休日に、自ら進んで水泳や鉄棒などの練習に取り組んでいる。

# 醸 芳 小 学 校 ～ 学 び の ス タ ン ダ ー ド ～

なまえ

## 1 学習用具

学習用具は次の物をそろえましょう。持ち物には必ず名前を書きましょう！

- 鉛筆 低学年…筆圧が弱いので2BかBを  
中学年以上…筆圧が強くなってきたらHB  
※ 授業中シャープペンシルは使いません。
- 消しゴム 白くてよく消える物
- 定規 10cm～15cmの物  
※ 折りたたみの物は適さない。
- 赤青の 下学年…赤青鉛筆  
用具 上学年…赤青の鉛筆もしくはボールペン
- 筆入れ 下学年…箱型。中身が分かり、取り出しやすい物  
上学年…買い換える時はチャック型でもよい。  
※ 算数用具や色ペンなど入れる物が多くなるため
- 下敷き ノートに書く時には、必ず下敷きをして字を書きます。

## 2 授業の約束

### (1) 授業の始めのあいさつ

「よいしせいになりましょう。」「はい。」

「これから〇〇〇（教科名）の学習を始めます。」「礼。」「お願いします。」

### (2) 授業中の約束

指名されたら「はい。」と返事をする。

「です。」「ます。」をつけて話す。

先生や友達の話を書く時は、作業をやめて、話す人を見て集中して聞く。

挙手の際は、まっすぐ右手を伸ばして指名されるのを待つ。「はい。」は言わない。

## 2. 授業の約束



### 1. 授業の始めのあいさつ

低学年 「よい姿勢になりましょう。」「はい。」（体育は「気をつけ。」）

「これから〇〇（教科名）の学習を始めます。礼。」

中高学年 「よい姿勢」（体育は「気をつけ。」）

「これから〇〇（教科名）の学習を始めます。礼。」

### 2. 授業中の約束

指名されたら、「はい。」と返事をする。「です。ます。」をつけて話す。

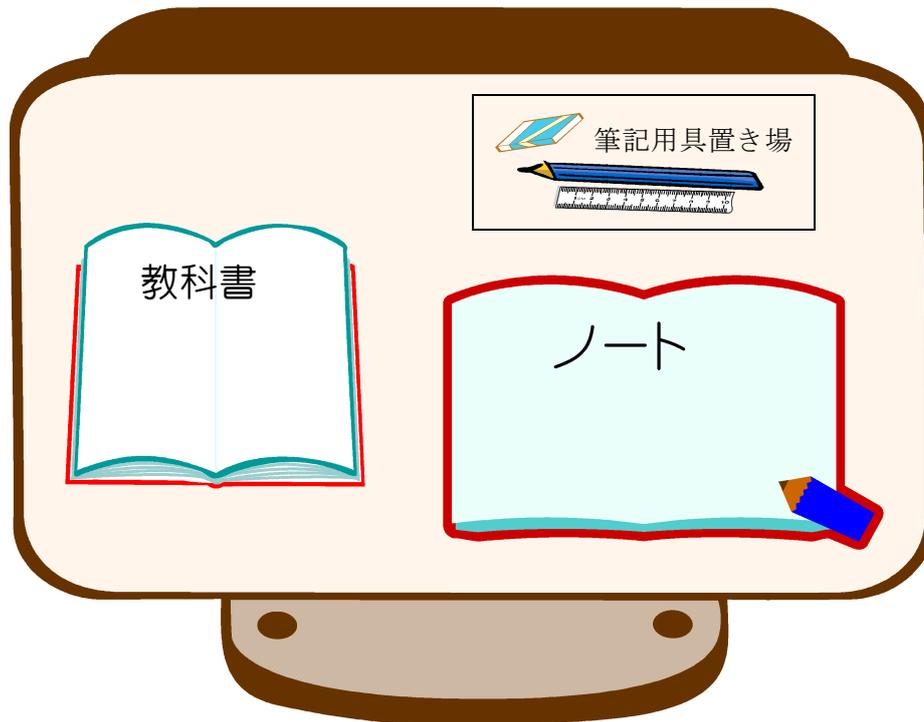
立って話す場合は、いすを机の中に入れてない。

挙手の際、「はい！」というのは、1度だけにする。

### 3. 机の上の置き方（右利き用）

落としたり、気が散ったりするので、筆箱は出さない。必要な筆記用具のみを出す。

鉛筆が転がって落ちない工夫をする。（滑り止めマット、鉛筆キャップなど）



### 4. 授業の終わりのあいさつ

低学年 「よい姿勢になりましょう。」「はい。」（体育は「気をつけ。」）

「これで〇〇（教科名）の学習を終わります。礼。」

中高学年 「よい姿勢」（体育は「気をつけ。」）

「これから〇〇（教科名）の学習を終わります。礼。」